

こうほうえん 様

毎日の福祉業務に不可欠なアイテムとしてポリコムを活用。効率的なビデオ会議で、職員の貴重な時間を節約し、介護サービスなどの質の向上を実現。



Ko Hiroe

廣江 晃 様
社会福祉法人こうほうえん
副理事長 医学博士



Tokio Tani

谷 東貴夫 様
社会福祉法人こうほうえん
法人本部 管財担当



米子拠点の介護老人福祉施設にて昼食を囲む利用者。こうほうえんでは介護、保育、医療などの全事業を通じ、利用者本位のサービスの提供が徹底されている(上)。鳥取および東京エリアの5拠点を繋いで行われた、多地点ビデオ会議(左下)。

■導入システム一覧

- ビデオ会議システム(各拠点端末)
 - RealPresence Group 310-720
 - EagleEye IV-4xカメラモデル
- HDX 6000-720
- HDX 4002
- HDXシリーズ用内蔵MCUライセンス
- VSX 7000
- VSX 6000
- ViewStation
- RealPresence Desktop
- RealPresence Mobile
- 多地点接続サーバー
 - RMX 1500C
 - 12HD/24CIFポート構成
- 管理・運用サーバー
 - VideoDual Manager 400(VDM 400)
 - VBP5300-ST
 - VBP 4555E-E3

製品導入の きっかけ

会議の都度かかる、往復5時間もの 職員の移動時間を解消すべく導入

鳥取県米子市をベースに、鳥取県内と東京都内で計125ヶ所の事業所を運営する、社会福祉法人こうほうえん様。介護老人施設の運営をはじめ、保育、医療、障がいといった福祉事業を幅広く展開されています。同法人が初めてポリコムのビデオ会議システム(以下ポリコム)を導入したのは2002年、拠点間での会議を効率的に行うためでした。

「当時は月に1度、鳥取県内の主要拠点から役職者を本部(米子市)に集め、事業の報告会を開いていました。しかし、鳥取市の職員が移動するのに片道2時間半以上かかり、大きな時間的負担でした」と当時を語るのは、同法人の副理事長を務める廣江氏。この課題の解決策として同法人の

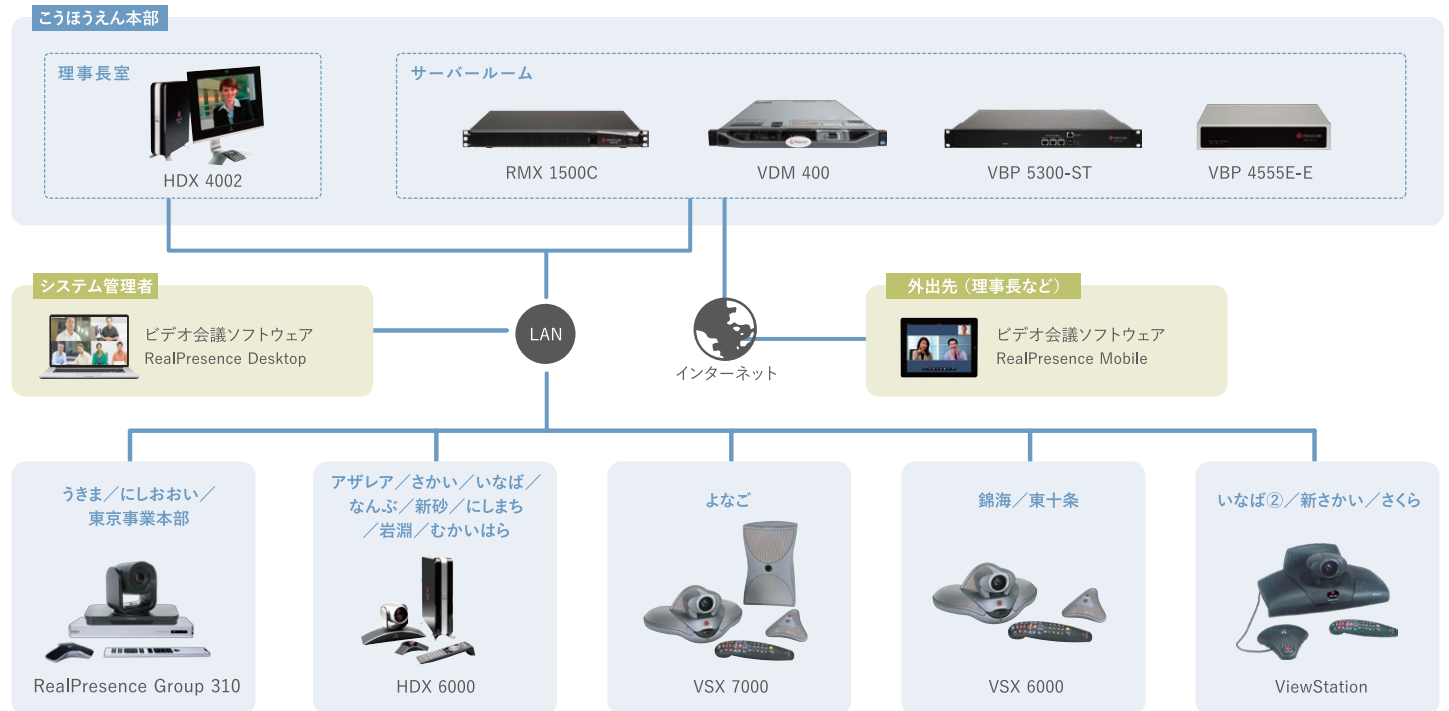
ICT分野を担当される谷氏は、当時まだ珍しかったビデオ会議システムに注目したといいます。

当初は、鳥取市と米子市の2拠頭に端末を導入し、ビデオ会議の運用をスタート。先の事業報告会をはじめ、指導者・管理者向けの研修についてもポリコムでの参加を試みたところ、十分に活用できることが証明され、他の拠点にも導入する話につながったといいます。

「研修会は毎回、大勢の職員を集めて行っていたので、開催方法をポリコムに置き換えることで、職員の移動時間や諸経費などのロスを大幅に削減できました」と廣江氏はその効果の大きさに言及します。

その後は事業の拡張に伴い、大型事業所の新

[システム概要]



設に合わせて順次ポリコムを導入。現在同法人では合計17台のポリコム端末が活躍しています。また、主要拠点数が6拠点に増えた2006年には多地点接続サーバーを導入。2013年には職員が外出先からでもモバイル端末で会議に参加できるよう、ポリコムのビデオ会議ソフトウェアや会議管理サーバーを追加導入するなど、ニーズの拡大に応じて効果的にシステムが整備されています。

また、同法人ならではのユニークな使い方のひとつが、求人・採用活動での活用です。

「東京エリアの職員採用では、東京～鳥取をビデオ会議で結び面接を行っています。出張費や移動の時間をまるまる節約できるばかりか、ポリコムで面接しても、現地の担当者が受ける印象とほぼブレのない人物評価が行えます。今後は技能実習制度で外国人採用も行う予定ですので、もし条件が合えば面接にポリコムを活用したい(廣江氏)」と語ります。

さらに最近では、外部機関と連携を図る場面でも、ポリコムの利用機会が増大。慶応大学との共同研究でも、進捗状況の確認や打ち合わせがポリコムで行われており「距離がコミュニケーションの障害にならない(廣江氏)」というメリットを実感さ

主な用途と活用 介護サービスに従事する職員の会議から採用活動に至るまで、広くポリコムを活用

こうほうえん様では現場職員の会議を中心に、幅広い場面でポリコムが役立てられています。稼働日数は土日を除いて毎月9割ほどにもなり、いまや「ポリコムを使わない事業運営は考えられない」と両氏が口を揃えるほど重要なコミュニケーションインフラです。

会議の内容は多岐に渡り「例えば、“ステップアップ会議”であれば、認知症デイサービスに携わる職員やケアハウスの職員など、各部門ごとに現場をより良く改善するための話し合いをするわけです。この他にも職員向けの各種研修や資格取得に向けたビデオ講義まで、内容はさまざまです(谷氏)」。もちろん、職員の会議にとどまらず、役職者による重要会議でも活用。全員参加が求められる定例会議などでは、外出先の職員がモバイル端末から参加することも少なくないといえます。

10/3	10/4	10/5	10/6	10/7	10/8
+	14:00-15:30 AIC企画推進委員会 16:00-17:30 長崎県職員ステップアップ	9:00-10:00 ストリクチエック会議(うきま 市・市防政会) 14:00-15:30 会務・生体文書委員会 16:00-17:30 フリーディング委員会	+	16:20-17:00 研究・リハビリ関係会	+
10/10 休養の日	10/11	10/12	10/13	10/14	10/15
+	+	14:00-15:00 会議・S.Sステップアップ 15:00-16:30 推進検討会	+	9:00-10:00 王路会打合せ 13:00-14:00 開校 16:00-17:30 会議・法人関係会	+
10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22
15:00-16:00 手続TV開校会 16:00-17:30 ゲーミンググループミーティング	10:00-12:00 ケアプランセンター・ステップ アップ委員会 15:00-17:00 事務局総会 17:00-18:00 会議・30周年記念・企画・編成 部会	14:00-15:30 会議・認知症デイサービス ステップアップ会議 16:00-17:30 会議・デイサービスステップ アップ	16:00-17:30 会議・DCM推進委員会 会議	13:00-15:00 会議・東地区 研修 15:00-16:00 情報相談ステップアップ 16:00-17:30 会議・ケアハウスステップア ップ委員会	+
10/24	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29
10:30-12:00 会議・小規模多機能型居宅介護 推進所ステップアップ会議 13:00-13:45 研修・業務研修(進捗)1期 終了式 14:00-15:30 エリア総務会議	10:00-18:00 省・本省推進委員会 +	10:00-12:00 会議・社中ステップアップ会議 16:00-17:00 リハビリ関係会議 17:00-18:00 本部在名会議	10:00-12:00 ポリコム取材 13:30-15:30 ダイアログステップアップ	15:00-16:30 エリア総務会議 16:30-18:00 会議・ISG推進委員会	+

ぎっしりと予定が埋め尽くされたビデオ会議スケジュール。現場の職員どうしの会議も多く、綿密なコミュニケーションがサービス品質の向上に結びついている。



鳥取および東京エリアの5拠点を繋いで行われた、多地点ビデオ会議のワンシーン。資料はタブレット端末でペーパーレス化し、省力化や省資源化が計られている。

れています。

こうした柔軟な使い方ができる背景には、ポリコムならではの会議品質の高さがあるといいます。「私が会長を務める別の会合ではパソコンのWeb会議サービスを利用していますが、会議中に音声や映像が乱れるなど、本題以外の部分で非常にストレスがかかる。対して専用端末のポリコムは品質が格段に高く、会議の効率がまるで違います。音と映像の質が会議の質と深く関わっていることを実感します(廣江氏)」とその実力を高く評価しています。

導入の 意義・効果

**福祉業界との親和性が高いビデオ会議で、
間接業務は効率化し、サービスの質も向上へ**

ポリコムを筆頭に、ICTを積極的に活用されているこうほうえん様ですが、その最大の理由は、職員の省力化を徹底するためだといいます。

「福祉業界に身を置く者として、絶対に手を抜いてはいけないうのが本業の利用者サービスの部分です。例えば、ポリコムの活用で会議にかかる移動時間や労力が軽減すれば、その分を利

用者サービスの品質向上や職員のワーク・ライフ・バランスの改善など、本来使うべきところに充てることが可能になります(廣江氏)」とポリコムの導入意義を述べられます。

また、福祉の現場では、スタッフ間で多くのコミュニケーションが必要となるものの、打ち合わせや情報伝達は30分~1時間ほどの短時間で済むものが多く、移動時間のムダがないビデオ会議に切り替えることで、会議効率は飛躍的に改善できるといいます。

このように、福祉業界との親和性も高いビデオ会議システムの今後については、「どの業界も人材不足が進み、今後はさらに人の時間が大切な時代へとシフトすることでしょう。そんな中、業務効率化や省力化に役立つビデオ会議システムの存在価値は、この業界でも高まっていくのではないのでしょうか(廣江氏)」と、大きな期待を寄せます。

地域ニーズに根ざした視点で、福祉業界をリードされるこうほうえん様と同様に、間接業務の効率化・時短化の実現やより質の高い利用者サービスを目指す、すべての事業者様にとって、ポリコムの導入・活用を検討する価値は大いにあると言えるでしょう。

社会福祉法人 こうほうえん

鳥取県米子市に本部を置き、昭和61年より総合福祉事業を開始。つねに地域との連携、地域ニーズを先取りした事業を推進し、現在では同県および東京都内を合わせて125の事業所、約2,200名の職員を擁する組織体制に。社会福祉法人として国内初の「経営品質賞(JQA)※」を受賞するなど、その取り組みは多方面で高い評価を受けています。 ※経営品質賞は鳥取県介護分野での受賞となります。



所在地:〒683-0853 鳥取県米子市両三柳1400 設立:1986年 ウェブサイト:<http://www.kohoen.jp/>

販売代理店 株式会社ケー・オー・エイ 〒683-0853 鳥取県米子市両三柳328



鳥取エリアを中心に(本社:米子市)、富士ゼロックスの県別特約店、日本アイ・ビー・エムのソリューションプロバイダーとして、ハードウェア・ソフトウェア・保守サービスを提供。また、IBMの協力ソフトハウスとして、システム導入サポートや開発支援・受託も担うなど、高度な技術力を背景に地域社会の情報化に広く貢献しています。

取材時期:2016年10月

お問い合わせ

E-mail dcs-info@princeton.co.jp

輸入販売代理店

株式会社プリンストン URL <http://www.princeton.co.jp/>



PolycomおよびPolycomのロゴ、また、polycom, Incの米国およびその他の国における商標です。本紙に掲載している会社名と製品名は米国またはその他の国における商標登録です。本紙に掲載している製品写真は出荷時のものの一部異なる場合があります。本紙の本文内ではTMマークや®マークは明記していません。